

虚血性心疾患患者の退院直後からの睡眠パターンと日常生活の適応の関係

著者	林 朱美
発行年	2013-03-07
URL	http://hdl.handle.net/10422/3079

氏 名 林 朱美

学位の種類 修 士 (看護学)

学位記番号 修 士 第 1 6 0 号

学位授与年月日 平成 2 5 年 3 月 7 日

学位論文題目 虚血性心疾患患者の退院直後からの睡眠パターンと
日常生活の適応の関係

論文内容要旨

※整理番号	165	(ふりがな) 氏 名	はやし あけみ 林 朱美
修士論文題目	虚血性心疾患患者の退院直後からの睡眠パターンと日常生活の適応の関係		
<p>研究の目的 虚血性心疾患患者の退院直後からの睡眠と生活の質を調査し、日常生活の適応と睡眠状況を把握し、関連性を調査することである。</p> <p>方法 対象者は、虚血性心疾患を発症し、治療後に通院する成人期から老年期の患者 30-50 名とした。調査期間は、2012 年 6 月から 12 月とした。退院 2 週間後、退院 3 ヶ月後に質問紙調査票の返送を依頼した。調査項目は、対象の属性、主観的睡眠はピッツバーグ睡眠質問票（以下、PSQI）を用いて、睡眠障害の有無をみた。週日と週末の生活の起床時間・朝食時間・昼食時間・夕食時間・就寝時間も得た。生活の質については、SF-36（アキュート版）を用いて、身体機能（PF）・日常役割機能[身体]（RP）・体の痛み（BP）・全体的健康感（GH）・活力（VT）・社会生活機能（SF）・日常役割機能[精神]（RE）・心の健康（MH）の 8 つの健康概念についての回答を得た。分析は、退院 2 週間後、退院 3 ヶ月後それぞれの睡眠パターンについての把握を行った。また、属性と睡眠と生活の質についての退院時期の相関の比較を行った。統計ソフトは SPSS ver.19.0 を用いた。倫理的配慮は、研究倫理委員会の承認を得て実施し、研究参加の自由とデータの保管と管理を厳重に行うことを説明した。</p> <p>結果 退院 2 週間後は 51 名、退院 3 ヶ月後は 32 名の質問紙調査票の回収が得られた。対象者は高齢で、無職の男性の対象者が多かった。対象者の生活時間は、退院 2 週間後と退院 3 ヶ月後に大きく時間のずれはなかった。両時期で、半数以上の対象者が PSQI 総合得点の 6 点以上を示した。その内、65 歳以上の対象者は、退院 2 週間後、退院 3 週間とも睡眠障害があった。65 歳未満の対象者は、退院 3 ヶ月後で PSQI 総合得点が睡眠障害なしの範囲に改善がみられていた。SF-36 は、退院 2 週間後から、退院 3 ヶ月後になると身体の状態の改善が示唆された。</p> <p>考察 虚血性心疾患患者は、退院直後から、睡眠に障害を抱えやすい状態にあることが明らかになった。対象者の多くが、65 歳以上で高齢者の睡眠障害との問題もあわせて、援助を考えていく必要性も示唆された。退院 2 週間後と退院 3 ヶ月後の主観的睡眠と生活の質を比較し、退院 2 週間後では、睡眠と三側面の健康感との関連、退院 3 週間後では、睡眠と二側面の健康感との関連が明らかになった。</p> <p>総括 虚血性心疾患患者は、半数以上が退院直後から、睡眠に障害を抱えており、特に高齢者が多いことが明らかになった。また、虚血性心疾患患者は、退院 3 ヶ月後は、退院 2 週間後よりも全体的な健康状態がよいと感じていたことが明らかになった。これらから、退院 2 週間後では、睡眠と身体的精神的社会的な三側面の健康感との関連、退院 3 週間後では、睡眠と精神的社会的な二側面の健康感との関連が明らかになった。退院後は、精神的な健康度を高く保ち続けられることで、睡眠状態がよいことが示唆された。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。